

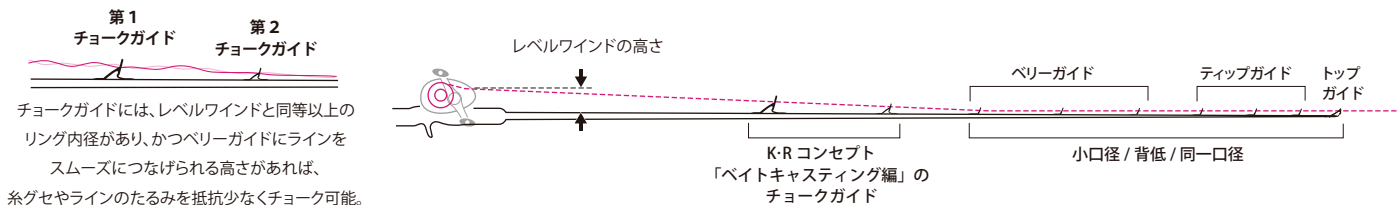
ベイトキャスティング編

キャスト時にスプールから放出されるラインは、スピニングリールが螺旋状なのに対し、ベイトキャスティングリールは直線状。

この直線状のラインを2つのチョークガイドによって速やかにスムーズに収束させるK・Rコンセプト「ベイトキャスティング編」のバットガイド(第1チョークガイド)には、ラインをレベルwindから第2チョークガイドへスムーズにリレーできる高さが必要です。

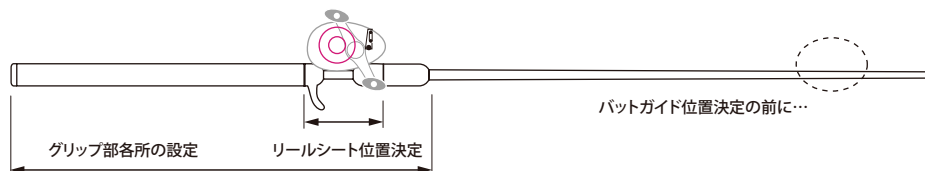
ここに①～⑤の手順を示しましたが、最も重要な2つのチョークガイドとベリーガイドの位置決めにはデリケートな要素が多く、ロッドの長さやテーパーによっても変化しますので、あわせてP.80～の参考寸法を参照ください。

レベルwindからベリーガイドまでスムーズに高さが下がることが基本



①グリップ部の長さとリールシートの位置を決める

最重要は、リールからバットガイド(第1チョークガイド)までの距離。そのため、はじめにリールシートの位置など、グリップ部の各所を設定します。



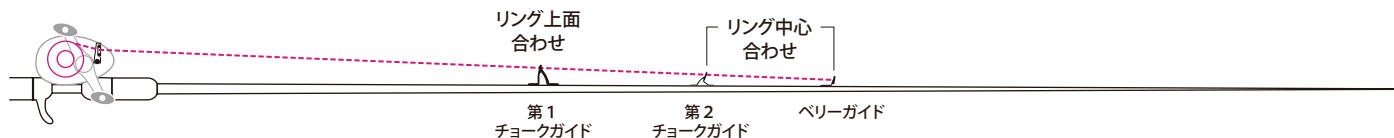
②レベルwind～バットガイドのリング上面を直線で結ぶ

レベルwindから真っ直ぐ伸ばしたラインが「リング上面」に接する位置にバットガイドを仮決めします。目安として、その位置はレベルwindから約500mm先ですが、ブランクの長さやテーパー、使用ルアーによってもバットガイドの位置は変化します。



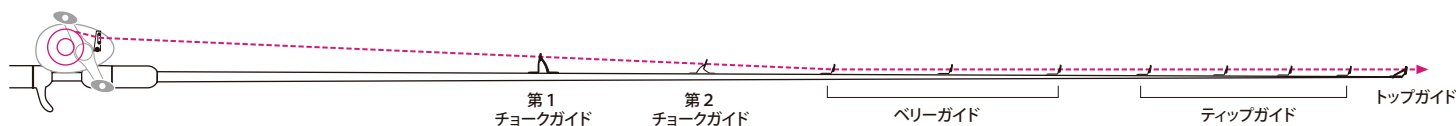
③第2チョークガイドとベリーガイドを仮決めする

レベルwindからバットガイドのリング上面に接したラインを、角度そのままにさらに真っ直ぐ伸ばした先に第2チョークガイドとベリーガイド(一番手前)を「リング中心」合わせて仮決めします。



④残りのベリーガイドとティップガイドを仮決めする。

ロッドアクションを考慮してティップガイドのリングサイズを決めます。ベリーガイドからトップガイドに向かい、だんだん間隔が狭くなるように各ティップガイドの位置を原則「リング中心」合わせて仮決めします。



⑤ガイド全体のバランスを整える

いったん全てのガイド位置を決めたら、実際にガイドにラインを通し、ブランクの曲がり具合やラインの様子などをチェックします。重要ポイントはこの2つ。

- ガイド間隔が不自然でないか?
- しならせたとき、ラインがブランクに触れていないか?

ラインがブランクに触れる場合は、ガイド間隔を少しづつ修正してまたテスト。それでもラインがブランクに触れてしまう場合は、ティップガイドの数を増やしてください。